

森 惟明・鶴見隆正

**PT・OT・ST のための
脳画像のみかたと神経所見
[CD-ROM 付] 第 2 版**

石川 誠

(医療法人社団輝生会理事長/

全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会会長)

かつてリハビリテーション医療の対象疾患は骨関節系が主流であったが、いつしか脊髄損傷、頭部外傷、脳卒中等の中樞神経系の疾患へと移行していった。ところが、脳という「神経の中樞」はブラックボックスと言われたように、解明された部分は極めてわずかで、大部分は未知の臓器であったことから、中樞神経系のリハビリテーションは科学として成立しにくい時代が続いていた。脳神経外科医、神経内科医、精神科医、リハビリテーション科医などの臨床家、さらに神経科学にかかわる多くの学者達の長年の努力により、ひとところに比べれば脳の解明は格段に進んできた。とはいえ、いまだにブラックボックスであることに変わりはない。

かつて、多くの臨床家による詳細な神経所見や行動観察、剖検所見等のすり合わせにより、大脳の機能局在論が一世を風靡した時代があった。19 世紀の後半のことである。その後 100 年が経過した 20 世紀後半には X 線 CT が登場し、新たな局面を迎えることになった。さらに MRI や PET などの新鋭機器が開発され、未知の分野が徐々に解明されつつある。画像診断の進歩により新たな事実が続々と確認されているのである。

小生が若いころ、脳は他の臓器とは異なり、再生し

ない臓器の代表と教え込まれたが、画像診断と同時に神経可塑性の研究も進み、脳は変化しうる臓器として誰もが認めるところとなった。今後は、かつての非常識が常識に塗り替えられる時代が続くことと思われる。

事実、人間の自然回復能力とそれをはぐむリハビリテーション医療の発展により、障害を持った方々の運動や動作、行動が予想を遙かに越えて回復を示す例は稀ではない。その裏側には、構造的かつ機能的な脳の回復が間違いなく存在するはずである。宇宙のような無限の脳という臓器を科学的に解明し、人類がさらに幸福に過ごせる社会をつくるためには、専門医や脳科学者だけでなく総力戦が必要なのである。すなわち、PT・OT・ST も大きく変貌を遂げねばならない。こうした時代にあつて、『PT・OT・ST のための脳画像のみかたと神経所見 第 2 版』の出版は、まさに時宜を得たものといえよう。

本書は、神経解剖と神経所見に始まり、豊富な具体的症例を鮮明な画像とともに提示し、こまめに Q & A も付してあり、何よりも難解な神経をわかりやすく説明し、読みやすいことが特徴である。さらに画像に関しては自学自習用の CD-ROM も添付するなど、懇切丁寧に作られた力作である。

脳神経外科の大家である森惟明高知大学名誉教授と大ベテランの PT である鶴見隆正神奈川県立保健福祉大学教授の共著である本書は、臨床にかかわる PT・OT・ST にとって、現場ですぐに役に立つことは間違いない。脳疾患を持つ患者さんに対応する多くの若き PT・OT・ST が座右に置いて日常的に利用するのに最適な本であると考え次第である。

●B5 判・160 頁

定価 5,250 円(本体 5,000 円+税)

2010 年 医学書院・刊